学校見学報告　富山県　堀川小学校①

「朝活動」　子どもが主体的に判断できる時間にする

島本　政志

富山市立堀川小学校に見学に行くことができた。以前からいつかは行ってみたいと思っていた学校である。視察派遣されることになり、派遣の直前になってから本を購入して少し読んでみた。想像していたのとは違った。

というのは、「すごいと呼ばれている堀川小の著書ならば、すごい教材研究や指導案が掲載されているに違いない」と思っていたからである。

しかし、そこには指導案は無かった。発問も無かった。あるのは、一人か二人の極めて詳細な子どもの発言や思考の変化、成長の記録だった。

堀川小は「朝活動」「くらしの時間」「授業」「自主活動」と呼ばれる４つ時間から日課は成り立っていた。

まず印象に残ったのが「朝活動」いわゆる掃除の時間である。

自分で自分の掃除しようと思う場所を決めるのである。

「偏りがでませんか？」と質問した。子どもたちはクラスや学年の子が担当しようとしている場所が分かるボードを見て、自分で場所を決定する。

仮に、人数に偏りができたとしても、それはその子が自分で判断したことなので、「教室が人数不足だから教室をしてください」などというような指示は一切しないそうである。

あくまでその子が自分の考えで、自分が掃除をしようと判断したことなので、その部分を大切にするということだった。

『ここを掃除しなさい』と言い続けても子どもたちは成長しません。やらされている感じが強いからです。学校をきれいにすることが子どもたちの目的ではありません。」

教務の先生が言った言葉にはっとさせられた。

確かにその通りなのである。

もちろん、いきなりこの取り組みをするのは難しいだろう。けれども一人一人の子どもたちが自分で周りの環境に自分なりに考えて取り組んでいることに驚いた。少しごみが残っていることが問題なのではなく、何も考えることがなく、与えられた仕事だけにただただ取り組ませることが問題なのである。

事務所ならば学校訪問のお客さんが最初に訪れる場所なので、雑巾をかける子もいれば、折り紙で装飾をする子もいる。自分で考えて環境への働きかけが、その子なりの考えや思いがあることが大切だとのことだった。